

牧師室から (2021.2.28)

今年は今日 (2月26日) が、ユダヤ教のプリム祭である。ペルシャのユダヤ人が殲滅させられるところを、エステル妃の機転によって救われたことを憶えてこの時期に行うこととなっている。詳しくはエステル紀に記されているのでお読みいただきたい。かつて小生がイスラエル旅行をした折、丁度この祭り重なって、女の子が口に猫ひげなどを付けて仮装して、手にお菓子を持って楽しそうにしていたのが目に焼き付いている。

またこの時期に食べるお菓子として『ハマンの耳』というのがある。クッキーのような生地の中真ん中に、ジャムや木の実を載せて三角形に折ったものである。作るのがそんなに難しくなさそうなので、大阪梅田のイスラエル物産店のおかみさんからおおよそのレシピと作り方を教わって作ってみたことがある。しかし何せ自身がお菓子作りは素人甚だしいので、重曹を適当に入れたら多すぎてボソボソになってしまった。それでも優しい教会学校の教師たちはおいしいと言ってくれたのでほっとした。そもそもこのお菓子は名前が悪いと思う。自国の民族の殲滅を企んだ悪者ハマンの耳なんて、ちょっと気色がよくない。どうもユダヤ人のセンスがよくわからない。とは言え『エステル妃の耳』では何だか畏れ多くて口にするのが憚られる。今年は関東に戻って来たので、『ハマンの耳』を作る代わりに、人形焼を買って食べようかな・・・。

(鈴木淳一牧師)